

奄美野生生物保護センター
 ニュースレター

奄美の風だより

センター & 協議会 News

奄美野生生物保護センターは設立 20 周年を迎えました！

奄美野生生物保護センターは、今年で設立 20 周年をむかえました。コロナの影響で延期となっていました。10 月 25 日、センターでは初めての試みでオンラインイベントを開催しました。その様子は YouTube で配信されていますので、「奄美野生生物保護センター 20 周年記念」と検索してぜひご覧ください。服部正策さんの記念講演会「服部正策が見た奄美の森の 40 年」も、とても面白く勉強になることばかりです。パタパタとしてしまいお見苦しい場面もあるかもしれませんが、センター職員全員で心を込めて作り上げました。内容がぎゅっとつまった見応えのあるイベントになっています。



◀ イベント開催時の様子



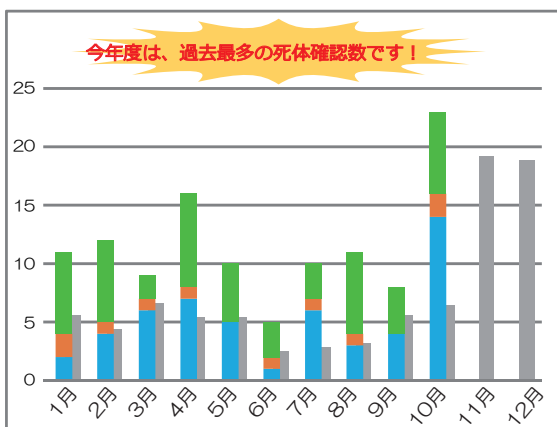
▼ センター職員全員で集合写真

センターからのお知らせ



アマミノクロウサギ死体確認数

(奄美大島及び徳之島における2020年10月31日時点のアマミノクロウサギの死体確認数と死因)



■ 死因不明・その他 ■ イヌ・ネコ
 ■ 交通事故 ■ 2007~19年の平均

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

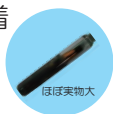
安全運転

残念なことに、今年も多くの動物たちが交通事故で命を落としています。動物たちを守るためにも特に夜間の林道ではゆっくり走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

野生化した犬・ねこは、アマミノクロウサギをはじめとした「奄美の森の宝」を食べてしまうこともあります。

- 🚫 捨てない
最後まで責任をもって飼いましょう。
- 🚫 マイクロチップの装着
ペットの確実な身元証明になります。
- 🚫 不妊・去勢手術
繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることにあります。
- 🚫 放し飼いをしない
ねこは室内飼育、犬は室内もしくはリードをつけて外で飼いましょう。



外来種対策

奄美の生態系を守るため、外来種の駆除と監視にご協力をお願いします。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は
伊仙町
です



泉重千代像

伊仙町は、長寿世界一を2名輩出し、合計特殊出生率では全国的にも高い水準を誇る長寿・子宝のまちです。

伊仙町の木【ガジュマル】

写真のガジュマルは、阿権集落にあります。樹齢は約300年といわれており、伊仙町のパワースポットです。ガジュマルの花言葉は「健康」で、繁殖力の強さから「幸運の木」とも呼ばれています。



おすすめの観光名所「徳之島なくさみ館 / 闘牛風景」

【徳之島名物の闘牛を見るなら徳之島なくさみ館！】

徳之島なくさみ館は伊仙町の手久集落にある島内で一番大きい闘牛もできる多目的施設です。“なくさみ”とは、もともと「なくさめる」という意味で、農業や日々の生活の辛さをなくさめることから、古くは闘牛だけではなく島唄や魚釣りなども「なくさみ」と呼びました。

闘牛の歴史はおよそ300年前の島唄にも残されており、古くから徳之島の人々に愛されてきました。



▲徳之島なくさみ館

1月・5月・10月にはミニ軽量級、軽量級、中量級、全島一（無差別級）のタイトルマッチが開催され、島民だけではなく全国から闘牛ファンが押し寄せます。試合の際には勢子と呼ばれる紅白の法被（はっぴ）を着た人が独特の掛け声で牛を奮いたたせどちらかの牛が戦意喪失と見なされて試合終了となります。大型牛では1000kgを越す牛同士の激しいぶつかり合いは正に手に汗をにぎる真剣勝負です。

また、併設されている資料展示室では闘牛の歴史などについて知ることができますので、ぜひお越しください。

(伊仙町役場きゅらまち観光課)

いきもののふしぎ ~ ハエトリグモのお話 ~

家の中でも見ることができるとても身近なハエトリグモ。ぴよんぴよんと飛びながら移動し、ハエなどを捕まえます。



▲ハエを捕まえるチャスジハエトリグモ

ハエトリグモとは

クモ目ハエトリグモ科のクモの総称です。ハエなどの小さな昆虫を食べます。いわゆるクモの巣は張りらず、エサは待ち伏せして飛びついて捕ります。かわいい大きなぱっちりとした目が特徴です。



▲チャスジハエトリグモ (オス)

身近な種類

家の中で見られる身近なハエトリグモのご紹介

【アダンソンハエトリグモ】



▲メス
オスと違い、全体的に茶色で地味な色合い。



▲オス
白い触肢が目立つ。

【チャスジハエトリグモ】



▲オス
おなかのところに黒い帯が2本ある。

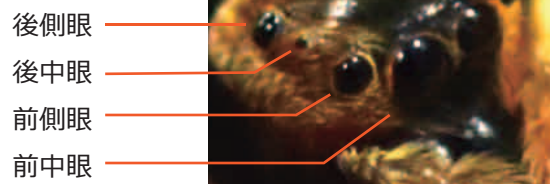


▲糸
クモの巣は張りませんが、移動する際に糸をだし命綱にします。また、卵を産むときや脱皮をするときにも使うそうです。



目は全部で8個もある

目は、前に4つ、横に2つずつあり、視力が非常にすぐれています。そのため求愛の際には足を大きくふり視覚にうったえる行動をするそうです。



色彩豊かなハエトリグモ

山の中やなかなかみることのできない色彩豊かなハエトリグモを紹介



マスラオハエトリグモ

奄美大島から宮古島に分布する。草地や森林の草や木の上で見られる。黒い体に青緑色の光沢のある毛が生える。



アカオビハエトリグモ (メス)

奄美群島および沖縄諸島に分布。主に林内で、草本上や樹幹で見ることができる。八重山諸島に分布するカラオビハエトリと別種であることが、近年明らかになった。



ハヤブサカノコハエトリグモ

奄美大島に分布。腹部にハヤブサが飛んでいるような模様があるためこの名前がついた。良好な森林の地表で生活する。2016年に新種として発表されたばかり。

アリグモの紹介

ハエトリグモ科アリグモ属 ムナビロアリグモ

奄美大島と沖縄本島の良好な樹林地でしか見つからない。アリグモの仲間は奄美群島に何種か分布しているので、探してみてください。



今の時期に見られる動植物



アトリ

冬鳥として全国に渡来する。平地や山地、農耕地で見ることができる。地上付近で草の種などを食べる。



マルバハダカホオズキ

九州南部から琉球に分布。やや湿った林縁に生える多年生。葉は互生し、葉身は卵形。果実は球形で赤く熟して目立つ。



リュウキュウルリミノキ

屋久島から琉球列島に分布する。山地の林内に生える常緑低木。奄美群島では5種類のルリミノキの仲間が自生する。



サシバ

奄美の冬の風物詩であるサシバ。ピックイーと鳴きながら、縄張りを主張する。観察していると面白い行動を見ることができる。



▲ロードキルにあったアマミハナサキガエル。お腹から卵が出てしまっている。

今季の一枚 「ロードキル」

ロードキルとは、野生動物が道路上で交通事故にあうことをいいます。アマミノクロウサギといった希少種のロードキルは、新聞などで取り上げられるので、ご存じの方も多いと思いますが、希少種だけではなく、身近な生きものたちもかなりの数が犠牲にあっています。鳥、カエル、ヘビ、カニといった動物たちが轢かれているのを見たことがあるのではないのでしょうか。道路は野生動物たちも利用する場所です。希少種だけではなく、身近な生きものたちにも、やさしい運転をよろしくお願いいたします。